



「あたりまえのことをあたりまえに！」とは？

その4 行動する

校長 神原 由香里

ワールドカップでは、日本が躍進し、決勝トーナメント出場を果たしました！そんな中、若松小でも相模原市の障がい者理解を広げるための独自企画「共にささえあいサポーター講座」がキックオフとなりました。新聞やテレビニュースでも報道されましたが、子どもたち全員がこの講座を受講し、サポーターに認定されました。その講座を受講するにあたり、「あたりまえのことをあたりまえに」できるようになるためのキーワードは「行動する」でした。

あたりまえのことをあたりまえに…って？

ホップ

ステップ

ジャンプ

自分から

あいさつ

考える

行動する

若レンジャーを中心に
クラスごとの輪番制で
あいさつ運動、
毎日頑張っています！

想像する

相談する

→ 命を大切にする

みんなちがって みんないい

まずは、ホップとして「あいさつ」をすることが基本。ステップ段階では、「考えたり・どうなるか想像したりすることが大事」であり、分からない時は、大人に「相談する」というところまでは、5月に朝会で話していましたが、いよいよその続き、ジャンプ段階の「行動する」…しかも自分から…。まさに、子どもたちの背中を押す講座となりました。「みんなちがって みんないい」を心にとめて、お互いの命を大切に考える温かい心を育み、それをどのような形で行動していけばいいか考える機会になったのではないかと思います。

しかし、講座を受けたからといって、すぐに障がい者に対して何か手助けをする行動ができるか、と聞かれたら、大人でも難しいかもしれません。でも、知ることから始め、自分たちにも何かできることはないか、と考える気持ちをもつことが大切であると思います。そして、まずは、自分のクラスにいる友だちにしっかり目をむけて、お互いを認め合い、助け合っていけるようになってほしいと思います。

どのような内容だったかは、次頁に掲載する子どもたちの振り返りを読めば見えてくるとは思いますが、この講座は市民も受講できるようになっています。「相模原市 共サポ」で検索すればサイトに飛べますので、「ちょっとした手助けってなんだろう？」「どんなことができるかな？」など親子で話し合う機会としてもぜひ活用していただくと子どもたちの理解もより深まっていくことと思います。



子どもたちは、ガイドブックといっしょに、大橋美沙さんデザインのストラップやシールをもらいました。そのストラップは、サポーターに認定された証になるので、もし、声をかけようか迷ったときに、背中を押してくれることにもなるかと思います。そのイラストにはこんな意味が込められています。

子どもたちの振り返りの中でも、このコアラに込められた意味について考えた子もいました。



「あたたかいクッションをかみさまからもらって。」

コアラの赤ちゃんは、体重を測る時、クッションを持たないと安定して測ることができません。

支えられないと測ることができないのです。

でも、支えがあれば、測ることができる。それを思い出して・・・

われわれも、支えがないと、できない場面がたくさんあるけれど。

支えてくださるあたたかみで、なんでもみんなと同じにできることがある。

そして、わたしたちは、人のあたたかみを人より感じられる特別なギフトを神様からもらったようです。 かみさまありがとう。

子どもたちは5色のストラップの中で好きな色を選んで持ち帰りました。

子どもたちの振り返りより

※一部抜粋して掲載しているものもあります。

お母さん、お父さんなどに教えてサポーターを、増やして助け合いたい。(4年)

手話で話す人たちや、体が不自由な人に声をかける前に、友だちともっとコミュニケーション力を高めたりして、知らない人と話すことに慣れる！(4年)

ヘルプマークを付けている人に、前までいい感じの接し方ができていない気がしたので、気をつけて優しく接したいと思いました。これからも障がい者の気持ちを考えて「行動」したいです。(4年)

私がまだ知らない障がいをしれたし、その障がいは、もとからではなく、事故やミスから生まれてしまったことが心に残りました。また、外見からは分からない障がいを「ヘルプマーク」が周りの人に知らせてくれるから障がいをもってしまった人にとっても、私たちにとってもすばらしい物だと思います。(5年)

この講座を受けて考えたことは、自分や友だち、家族が明日事故などで障がい者になるかもしれないから、障がいについて知っておこうと思いました。気づいたことは、障がいによっては困っていることが全然ちがうことです。(5年)

障がいの人を仲間外れにするのではなく、自分がもし障がい者だったら、どう言われ、どういうことをしてあげたらいいんじゃないか、うれしいか、を考えたい。今日の授業でもらったガイドブックを読んで、障がいのことやかわり方をもっとくわしく知りたかったです。(5年)

今日、この講座を受けて私が考えたことは、障がい者に対して思いやりをもつことが大切だ、と話を聞いたり動画を見たりして思いました。例えば、やさしく声をかけたり、手助けしたり。自分のできる範囲で、障がい者への理解・思いやりをもちたいと思いました。これからもっと今日聞いたことをまわりの人に伝えて、思いやりのある社会になったらいいと思います。(5年)

今日の講座を受けて、私は障がいをもっている人だけでなく、困っている人へも手助けしたり、声をかけたりしていきたくて思いました。私は、その障がい者に合った手助けの仕方や声かけをしたりして助けていきたくて思いました。例えば、電車やバスでは、障がい者マークをつけていない人でも、お年寄りにも席をゆずりたいと思いました。そして、自分一人で助けられないときには、周りの人に助けをもらって障がい者を助けたいです。(6年)

共にささえあいサポーターとして、障がい者に関わらず、困ってそうな人がいたら、声をかけてみようと思った。もし、声をかけづらい場合は、相手の立場になってみて、声をかけるべきか、助けるべきかを判断しようと思った。みんな同じ人間として共に平等にさせるような安心・安全の社会を作っていきたいと思う。この先、中学・高校でも何か障がいをもっている友達ができると思うから、その時のためにいろいろ学ぼうと思う。(6年)

私は街中でヘルプマークを持っている人は見たことがないです。だけど、それは、「周りを気にしてないからかな？」と思い、今日の話聞いて、これからは歩くときも周りを見て、困っている人がいたら、障がいの有無に関係なく声をかけていきたくて思いました。マークのコアは何の意味があるのかな？、とっていると支え合うという意味があって、これみたいに友だちと助け合っていきたいと思った。障がいがあるかないかは、見た目じゃわからないと思った。頭の中では「助けたいな」とか「どうしよう…」とか思うことはあるけれど、行動には移せてないから、これからは積極的に声をかけていきたい。(6年)

障がい者の映像を見て、自分と関わりがないわけではないということが分かりました。中には、自分一人じゃできないサポートもあると思うので、その場合は、その場から離れるのではなく、周りの人の助けを借りるなどして、共に支え合っていこうと思いました。自分の行動で人を助けられると考えるとともに、支え合うことは大切だと思いました。(6年)

そして、さらにもう一つ。「あたりまえのことを あたりまえに」できるためには「決まりを守る」ことも欠かせません。サポーターの証となっているストラップは、まさに学んだ証、きっと子どもたちにとっても一歩踏み出す勇気となると思うので、ランドセルへの着用は可としています。その際、各クラスで、もう一度若松小の約束を確認しています。

若松小の約束

あたりまえのことをあたりまえに…って？

きまりを守る

- 登校・下校の時間を守る！
- 1. 時間を守る** 授業、給食、掃除…開始・終了時間を守る！
- 2. 廊下は右側を静かに歩く** シャープペン ×
- 3. 学習に必要なものだけ持ってくる** キーホルダー等 ×
- 4. 名札を付ける** 共サポストラップ ○…サポーターの証なのでOK！ お菓子・ジュース・ゲームなど ×
- 5. 下校後：校庭で遊ぶルールを守る** 自転車は定位置に止める

これらに関して、おうちでもなんのためにきまりがあって、なぜ守らなければならないのか、持ち物の確認とともに、そんなきまりの意味を話す機会にさせていただくと、学校と家庭のタッグが組める…つまり、家庭と学校も支え合いながら、子どもたちにより効果的な教育を展開でき、若松小の強みがますます増していくと考えています。ご協力をよろしくお願いします。

サッカーワールドカップでは、日本人サポーターの試合後のごみ拾いが、今回も注目されています。「ごみがあったら拾う。」「使う前よりもきれいにして帰る。」…日本人の心・行動が注目されています。「共にささえあいサポーター」の心・行動も若松小から広がっていけると嬉しいです。